

健康診断では どんな検査をしていますか？



健康診断で一般的に
検査されている項目からご説明します

身長・体重・BMI

- ・身長や体重を測り、肥満度（BMI）を測定します。
- ・BMIとは、Body Mass Indexの略で（ビー・エム・アイ）と言います。
- ・計算の仕方は→BMI=体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）です。
- ◆25以上が肥満、18.5未満の場合は痩せすぎです。

体脂肪率

- ・体重に占める脂肪の割合の事です。

	やせ	適正	軽度の肥満	肥満
男性	16.9%以下	17.0～23.0%	23.1～24.9%	25.0%以上
女性	19.9%以下	20.0～27.0%	27.1～29.9%	30.0%以上

腹囲

- ・臍の位置でお腹まわりを測定し、内臓まわりの脂肪の蓄積を測定します。
- 下記の値以上の場合、内臓脂肪面積が男女ともに100cm²以上に相当し、内臓型肥満が疑われます。 ☆裏面の『腹部CT』の検査をすると知ることが出来ます。
- ◆内臓肥満型肥満は、【男性】85cm以上 【女性】90cm以上です。

胸部X線

- ・エックス線（放射線）を使用し、胸部の撮影をして、肺の形や心臓の形、肺を覆っている膜（胸膜）などを観察します。
- ◆わかる病気：肺結核、肺炎、肺がん、気管支炎、肺気腫など
- ☆妊娠中・妊娠の疑いのある方は、検査できません。

腹部超音波

→脂肪肝、結石、のう胞、腫瘍の有無を観察します。

- ・肝臓 →脂肪肝、肝のう胞、肝血管腫、肝臓腫瘍など
- ☆脂肪肝は、肝臓に脂肪がたまった状態です。アルコールを飲まない方でも、非アルコール性脂肪肝になる場合があります。偏った食生活や運動不足、体質、遺伝などが原因です。重症になると、肝硬変になる危険性があります。
- ・胆のう →胆のうポリプ、胆石症、胆のう壁肥厚、胆のう腫瘍など
- ・脾臓 →脾腫、脾臓石灰化、副脾など
- ・膵臓 →膵管拡張、膵のう胞、膵結石、膵石灰化など

☆脾臓は、横に長い臓器です。『頭部、体部、尾部』と大きく3つに分けられます。真ん中の『体部』は、比較的観察しやすいですが、両端の部分は胃や十二指腸と重なることで見えにくい場所です。更にガスの貯留や脂肪などで観察できない場合があります。

- ・腎臓 →腎臓結石、腎のう胞、萎縮腎、水腎症など

頸動脈超音波

→耳の少し後ろを通る、大きな血管の壁の厚さや血管の動脈硬化の状態を観察します。

- ◆わかる病気：頸動脈壁肥厚、石灰化

血管の断面 イメージ



『プラーク』ってなんですか？
血管の内側に出来たこぶの事です。

『IMT』ってなんですか？
動脈の壁の内膜と中膜を合わせた厚さの事です。1.1mm以上で動脈硬化と判断されます。(2019.4.1～変更)

心臓超音波

→心臓にある部屋の壁の厚さや血管の逆流を防ぐ弁の異常などを観察します。

- ◆わかる病気：心拡大、心肥大、弁膜症など

判定の見方

A	異常ありません
B	軽度の所見を認めますが、心配はありません
C	経過観察が必要です
C6	経過観察し、6ヶ月後に再検査をお勧めします
D2	精密検査が必要です
D1	治療が必要です
E	現在、通院中または治療中 ※主治医に結果をお見せ下さい

平成30年4月から
判定の表記が一部変更
になりました。

・『C6』は、早急に精密検査ではないが、再検査を行い、気にかけて欲しい内容
・『D2』は、今までの『D』
・『D1』は、今までの『F』
(日本ドック学会基準より)

聴力

- ・主に、1000ヘルツ（低音域）と4000ヘルツ（高音域）の周波数の音が聞こえるかを測定し、聴力の低下を観察します。

原因を特定するものではありません。

- ◆異常の場合、加齢によるものや病気による場合があります。確認のため、耳鼻科にて検査をしてもらいましょう。

周波数の目安は、1000ヘルツは、女性の会話程度の音。 4000ヘルツは、セミの鳴き声の音の高い音です。



視力

- ・主に、5m離れた場合の視力を測定します。
- ◆0.6以下の場合、視力低下が疑われます。

本を読むときなどの近い視力（30～50cm）の測定ではありません。



血圧

- ・血液が流れている時に、血管の壁に与える圧力を調べます。
- 心臓から血液を送り出す時の圧力を、収縮期血圧（最高血圧）
- 心臓から血液を送り出していない時の圧力を、拡張期血圧（最低血圧）
- ◆基準値よりも【高いとき】 高血圧症 【低いとき】 低血圧症が疑われます。



☆血圧が高いまま放置すると、高血圧症・腎臓病・内分泌疾患・高脂血症・動脈硬化症、脳卒中などを引き起こす恐れがあります！薬を飲むか医師に相談してください。

心電図

- ・胸と手首、足首に電極をつけて、心臓の筋肉が動くときに発生する電流をグラフに表し、心臓のリズムや働きを検査します。
- ◆わかる病気：心筋梗塞、不整脈、狭心症、心肥大など



☆所見があった場合、専門用語が書いてあります。
☆『精密検査が必要』との判定があった場合は、早めに受診して治療の必要があるかを判断してもらいましょう。

尿検査

→本来、尿中に含まれない蛋白や血液などの有無を調べます。

- ・尿蛋白 →【陽性】腎臓機能の低下が考えられます。
- ・尿潜血 →【陽性】腎臓や泌尿器系での出血が考えられ、腎炎、腎不全、膀胱炎、腎臓結石などが疑われます。

☆生理中の場合、生理による血液の反応がその他の病気による血液反応か、判別が不可能のため参考値となります。

- ・ウロビリノーゲン →【陽性】肝臓や胆道系での病気が考えられます。
- ・ビリルビン →【陽性】肝臓や胆道系での病気が考えられます。
- ・尿糖 →【陽性】糖尿病が疑われますが、血液検査（血糖値、HbA1c）の結果と合わせて判断が必要です。
- ・ケトン体 →【陽性】糖尿病、甲状腺機能亢進症、発熱を伴う病気の疑いがあります。

☆過度の運動や運動での発汗や食事制限などで、影響を受ける事があります。

- ・pH ⬆️ 腎盂炎、膀胱炎、尿道炎などの尿路感染症が疑われます。
⬆️ 腎炎、糖尿病、高尿酸血症（痛風）などが疑われます。
- ・比重 ⬆️ 糖尿病、発熱を伴う病気、ネフローゼ症候群、脱水症などが疑われます。
⬆️ 多量の水分摂取、腎盂腎炎、高カリウム血症、水腎症などが疑われます。
- ・尿沈渣 →異常の場合、腎臓や膀胱の病気が疑われます。

骨密度 →微量のX線を使用し、骨の強さを調べます。
⚠ 骨粗しょう症の疑いがあります。

胃部X線 →胃を膨らます発泡剤を飲んだ後に『バリウム』を飲み、胃から十二指腸の観察をします。

◆わかる病気：ポリープ、潰瘍、がんなど

☆授乳中の方は、検査できない場合があります。

胸部CT →胸部を、連続した断面での画像を撮影し検査します。
(64列マルチスライスCT)

◆わかる病気：肺がん、肺炎腫など
『リンゴを輪切りで見るイメージ！種の形やどこにあるかなどわかりやすいです！』

腹部CT →腹部の断面を画像化し、内臓脂肪の面積を解析、分析します。
『内脂肪と皮下脂肪のつき方がハッキリ分ります！』 『お腹の断面』イメージ

☆骨密度、胃部X線、各CTは、妊娠中・妊娠の疑いのある方は、検査できません。

MRI →磁気や電磁波を使って検査します。身体の断面や血管の画像を撮影します。

◆わかる病気
・頭部MRI →脳梗塞、脳腫瘍、脳出血、動脈瘤など
・子宮・卵巣MRI →子宮筋腫、子宮・卵巣がん、卵巣腫瘍、子宮腺筋症など

☆MRI検査は、被ばくの心配はありません。ただし、強い磁気を使用しているために体内に金属がある場合や染料の影響でやけどの恐れがある刺青（タトゥー）のある方は検査できません。検査中は、工事中のような大きな音が鳴ります。

ホームページに、MRI検査・CT検査の詳しい説明や画像がありますのでご覧ください。音も体験できます！

マンモグラフィ →乳房を圧迫した状態で撮影し、しこり（腫瘤）や石灰化の有無を調べます。
→乳がん、乳腺の異常（乳腺症、乳腺非対称、石灰化など）、腫瘤、硬結など

☆マンモグラフィ撮影は、女性の技師が担当しています。妊娠中・妊娠の疑いのある方、授乳中の方は検査できません。（断乳6ヶ月から可能）

乳房視触診 →皮膚のひきつれや分泌物の有無を調べます。
→乳がん、乳腺の異常（乳腺症、乳腺非対称など）、腫瘤、硬結など

子宮頸部細胞診 →子宮の入り口（頸部）の細胞を採取し、子宮頸がんの可能性を調べます。
→子宮の入り口のがん（頸がん）、異型上皮（がんになる前の細胞）、膣炎など

子宮超音波 →超音波を使用し、子宮・卵巣の形や大きさなどを調べます。
→子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、卵巣のう腫など

HPV（ヒトパピローマウイルス）
→子宮頸がんを誘発する可能性のある『HPVウイルス』に感染しているか調べます。
【陽性】 HPVウイルスに感染していることを意味しますが、「＝がん」ではありません。

☆HPV陽性の場合、多くは免疫力の作用によって体外に排出されます。持続感染がないか婦人科で経過観察してもらいましょう。

胃内視鏡（胃カメラ） →専用のカメラがついたスコープを使用し、食道から十二指腸までの上部消化管の内側の異常の有無を観察します。
→胃がん、ポリープ、逆流性食道炎、潰瘍など

大腸内視鏡（大腸カメラ） →専用のカメラがついたスコープを使用し肛門から盲腸までの下部消化管の内側の異常を観察します。
→大腸がん、大腸ポリープ、大腸憩室（けいしつ）など

眼圧 →眼球に風をあて、はね返る圧力を測定します。

◆わかる病気：主に緑内障

【正常】 【緑内障 初期】 【緑内障 進行】
☆緑内障とは、主に眼圧が上昇することによって、視神経が障害され見える範囲が狭くなる病気です。急性の場合、目の痛みや頭痛、吐き気があります。

ハードコンタクトレンズ：はずして検査します。
ソフトコンタクトレンズ：つけたままでも検査できます。

眼底 →瞳孔を通して眼の血管や網膜、視神経を観察します。

◆わかる病気：白内障、黄斑変性症、視神経の変化など

項目	何を見ているか	変化の表現
K-W	高血圧による細動脈の変化	0～V
Scheie H	高血圧性変化	0～4
Scheie S	動脈硬化性変化	0～4
SCOTT	糖尿病性変化	0～VI

※変化の表現で、『0』の時は異常がないことを意味しています。

ABI・CAVI →仰向けに寝た状態で、両腕と両足首の血圧と脈波を調べます。
・ABI →動脈の詰まりの程度を調べます。
・CAVI →動脈の硬さの程度を調べます。

ABI・CAVI専用の結果用紙が同封されます。詳しくはそちらをご覧ください。

肺機能 →年齢や体型、性別を考慮し、肺の機能を調べます。

◆異常値の場合、胸膜の病気や肺が硬くなる肺線維症、喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）といわれる肺気腫、慢性気管支炎などが疑われます。
・肺活量 →思い切り息を吸い込み、精一杯吐き出した時の全呼吸器量です。
・一秒率 →肺活量の測定時、最初の1秒間に全体の何%を吐きだせるかの値です。

喀痰 →肺や気管支などの炎症の原因を知るための検査です。

・結核菌検査 →陽性の場合、結核が疑われます。
・喀痰細胞診 →陽性の場合、呼吸器系のがん細胞が疑われます。

ABC検診 →採血で、胃がんの発生リスクを調べる検査です。

・ペプシノゲンⅠ →胃の下の部分から分泌されます。
・ペプシノゲンⅡ →胃の上の部分から分泌されます。
・ペプシノゲンⅠ／Ⅱ比 →胃粘膜の萎縮の広がりとその程度、胃液の分泌状態、胃粘膜の炎症の有無を調べます。
・H.ピロリ抗体 →ピロリ菌に感染しているかを調べます。

※陰性でも高値の場合、注意が必要です。一度は、胃内視鏡検査をお勧めします。

【ABC法の判定】 ペプシノゲン検査とヘリコバクター・ピロリ抗体検査の結果を合わせてみます。

		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		陰性（-） ※注	陽性（+）
ペ プ シ ノ ゲ ン	-	A群 健康な胃	B群 少し弱った胃
	+	D群 かなり弱った胃	C群 弱った胃

※注 一般診療では、ピロリ菌抗体価10未満を陰性と判定します。（＝現在ピロリ菌の感染がない）
ABC検診の場合は、ピロリ菌抗体価3未満を陰性と判定します。

再検査対象の場合：胃がんのハイリスクに分類されますので、胃内視鏡検査をお勧めします。

便潜血 →専用容器に便を採り、血液の有無を調べます。

【陽性】 大腸がん、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎など

便中ヘリコバクター・ピロリ抗原 →便中のピロリ菌の有無を調べます。

【陽性】 慢性胃炎・胃潰瘍が疑われます。